揖斐郡教育研修センター通信　令和8年1月28日

～揖斐郡教育会研修総会でのプレゼン発表・シンポジウム・講話から学んだこと～

1月21日（水）の令和6年度揖斐郡教育会研修総会では、郡内各小中学校の教職員の皆様、各町の教育委員会の皆様にご参加いただくとともに、300名近い方にアンケートのご回答いただき、ありがとうございました。

生成 AI が学校教育にも社会生活にも取り入れられ、情報化・国際化が進むソサイエティ5.0の社会。児童生徒数の減少がさらに進み、学校の再編等も行われていく変動の激しい予測不能といわれる時代。そうした中で実践論文で述べられた1つ1つの尊い理論や実践は、揖斐郡の教育を高め、揖斐郡の子どもたちの成長や夢の実現につながる力だと思います。

「揖斐郡教育センター通信　郡教育会研修総会特集号」の送付、「令和7年度郡教育研究実践論文集」への掲載と郡センターHPへのアップを行い、実践論文に取り組まれた先生方の優れた実践を揖斐郡全体に広めたいと思っております。ぜひ目を通していただき、日々の教育実践にご活用ください。

日常の実践での活用や令和7年度に教育研究実践論文に取り組まれる際の参考にしていただきますようお願い致します。

■令和7年度揖斐郡教育会研修総会参加者の経験年数　　（　）内は昨年度

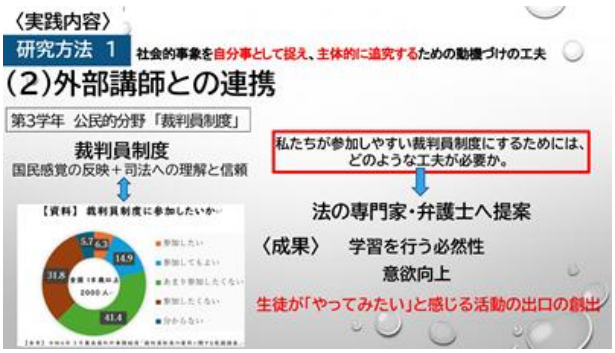
3年未満	19.8%	（21.3%）	4～ 6年	8.1%	（9.6%）
7～10年	7.0%	（9.1% ）	11～20年	20.8%	（19.3%）
21～30年	15.4%	（15.2%）	31年以上	28.9%	（26.9%）

① プレゼン発表を聞いて学んだことや自分でも生かしてきたいと思ったこと

- VUCA の時代。社会的な問題を自分ごととして捉えることは、理科も一緒です。研究方法１～3 も理科で言えることでした。動機づけの単元を貫く課題は、教師が単元の見通しを持っていないと持てません。教師の力が試されるとおもいました。多面的、多角的は、文言としてはよく聞くが、立場や改革によって見方を変えたことが説明されることがわかりやすかった。生徒もその視点に立てていることが素晴らしい。アンケートの結果からも、生徒の意識に変容が見られるのが素敵だと思った。
- 私も専門が社会科で長年指導をしてきたため、興味深く聞かせていただきました。私も授業をするうえで大切にしてきたことは、「わたしは、ぼくはどうする」と自分事として考えることでした。先生は自分事として考えることができるように、授業導入での動機づけの工夫、事象を多面的・多角的に考察する指導の工夫等を図られました。すばらしいと感じました。江戸幕府の指導例を出されましたが、例えば、単元の出口のまとめとして、「あなたが将軍なら、いくつかの改革の代わりにどのような改革をするのか」と問い、自分の考えを書いても、おもしろいと思いました。
- 授業で、出口として何ができていればいいのかが明確なところがいいと思いました。また授業の流れがパターン化されていることで、生徒は学習内容に集中できるようにしていたところが良いと思いました。
- 社会科は知識の暗記になりがちで、どうしてこうなったか追求させるために自分だったらと想起させることは大事だと分かった。さらにまとめを書くときの条件を指定することを取り入れたい。
- 大変わかりやすい発表で勉強になりました。「自分事として捉える」ことは、教科学習だけではなく日常生活においても非常に重要だと思います。教科を通してこう言った思考力を育むことは大切であり、私も授業の中で意図していかなければならないと思いました。また、出口を明確にすること、自己の変容を自覚し自分の言葉で語れる子にすること、大変重要だと思います。私もまとめを書かせるときに書き始めやキーワード等を指定して取り組ませますが、今後も継続し、自分の考えを深められる子の育成に努めたいです。
- 社会科の学習を通して、VUCA の時代を子ども達が生き抜いていく力を確実に身につけさせたいという気概を感じた。自分の教科でも改めて未来を見据えた学習を進めたいと感じました。
- 私は、プレゼン発表を聞いて子供たち自身が学んでみたい、取り組みたいと思う授業づくりの大切

さを学びました。どの教科に置いても子供が主体的に学べる機会を増やしていきたいです。

- 色々なことが起こる世界に出ていく、もしくは社会をより良くしていくために、教師から一方的に教えるだけでなく、子ども達自身が自分でどうしていくと良いかを考える力を養っていくことが大切であると感じました。そのために課題設定から出口、目指す姿まで生徒がやってみたいと思えるものを準備することが大切であると感じた。



- 発表された先生が、めざす生徒像を明確にもち、計画的に指導方法を考えられている姿は、大変勉強になりました。なりました。初心を忘れず、私自身の実践に活かしていこうと思います。
- 専門教科を「未来を自分の力で切り拓くための基盤となる科目」にしたいと考えられた志に感銘を受けました。私も自分の専門に自信をもち、児童の今後の人生を支える一端になるように心がけたいと思いました。
- 実践された内容を聞いて、教材研究の大切さを感じました。子どもたちがよりよく考えるためには教材について教師側が理解している必要があります。忙しい中ではありますが、本日より単元を見通した教材研究を行いたいです。
- 社会科をいかに面白く、生徒が興味をもって取り組めるかを考え、授業を構築されていることが素晴らしいと思った。将来役に立つ教科だとわかっていても、ただ覚えておけばいい…という状態では、生きて働く力にはならない。それを踏まえて、学びが深まっていく授業を展開してみえることが、子どもたちのまとめから伝わってきた。交流を重ねることで学びが深まり、本物の力になることがよく分かった。こんな授業が受けられる生徒たちは幸せだと思った。
- 若い先生方が意欲的に実践してみえることに感動しました。実践を理論立ててまとめ上げることでことで自身にも財産となることを、プレゼンを通して本校の職員にも伝わり有難いです。よい刺激をいただきました。

② シンポジウム発表を聞いて学んだことや自分でも生かしていきたいと思ったこと

- どの先生方もやはり、児童生徒の意識や実態把握に努め、その課題を見出し、その解決のために、児童生徒に寄り添い、丁寧に指導に当たることの大切さを改めて実感しました。
- アサーションの本は読んだことがあるが、自分の意見も相手の意見も大切にしていくことを実際に学級で実践されたことを初めて、聞きました。自分を大切にしながら、相手を大切にすることは、本当に児童に身に付けさせたいことです。
- 体育の学習で自分の動画を撮って見返すことは行なっていても、AI での分析は行なっていないので今後活躍して、児童自ら積極的に運動に取り組めるようにしていきたいと思いました。
- どの実践も課題を解決するために、児童の側に立って方策を考えている。教師サイドからの指導ではなく、子どもにじっくり考えさる実践ばかりであった。時代に求められている力を敏感に察知することが大切だと学びました。

- どなたの発表も生徒の抱える問題や課題、実態を捉えて捉えてはじまっていると感じます。「させたい」ではなく「子どもは、なにがしたいのか」「やりたいのか」といった、徹底した子どもの視点に立つことが大事だと気付かされました。
- 観察を通して子どもの実態をよくつかみ、それに合った課題や手立てを考えていくことの大切さがわかった。今後は ICT と生成 AI の活用について研修を深めたいと思った。
- 子どもの学ぶ意欲の維持や思考の支援のためには、教師による実態把握をもとにした先回りの準備が欠かせないということをあらためて学びました。
- 各学校で活躍してみえる先生方のお話は、とても勉強になりました。先生方が常に前向きに努力してみえるお姿や姿勢が本当にすごいと思います。私も目の前の子どもたちのために、一つでも生きる力を高めていくことができるように、明日から頑張って参ります。ご発表を聞かせていただき、本当にありがとうございました。
- 永井先生からは、教科に意欲が低い児童も参加できるようにタブレットを効果的に活用されたことです。船戸先生からは、自分の考えの理由を話せたり、生活経験を踏まえて考えをもてるために、

見方を働かせる言葉、表現の指導が有効だと学びました。小林先生から、問題行動を減らすために、言葉を大切にする指導を私自身も学び、実践していきたいと思いました。

- 全ての先生方に共通することは、まず実態の把握、そこからの願いをもち、そのための手立て工夫を考え、検証し、さらに改善を講じることです。また、その手立て、工夫の中に、様々な挑戦や準備があると思います。また、どの先生の実践にも自己決定をする場の提供がある。アプローチは様々ですが、教師が粘り強く取り組むことが生徒を育成することにつながると再確認した。目の前の生徒の様子をしっかりと観察して、状況判断をし、その都度修正をしながら、実行していくタイムリーな授業改善ができるようにしていきたいです。
- 今後 ICT や生成 AI などを積極的に活用して行けるように、自分自身が積極的に取り組んでいきたい。特に、生成 AI とロイロノートについて理解を深めたいです。。
- 目の前の子どもたちのことを考えながら指導の手立てをうっていくことは、やはり重要で、今も昔もかわらないと思う。ロイロノートなど ICT を活用して活動は情報化社会を生き抜く子どもたちが興味を持って行えるものだと思うし、機器の操作方法や応用なども子どもたちの方がたけていることが多いので、私自身まだまだ学びを続けながら、ICT 活用の良さを取り入れていきたいです。
- 便利な世の中になり子どもたちは様々な ICT 機器や生成 AI に囲まれて生活している。便利な機能を上手に授業に活用しながら子どもたちの学びの向上を目指していきたい。また、自分自身がそういったものを使いこなせるように研修に参加していきたい。
- 特に、永井先生の実践に実践に興味をもちました。生成 AI を活用した実践の具体を初めて聞いたので、自身の実践に取り入れられることはないか考えていきたいと思います。
- 理科の実践論文の「予想」の理由のもたせ方の工夫をぜひ取り入れたいと思いました。根拠のある予想や仮説をたてる力を付けるために、段階を踏みながらワークシートや理由を考える際に使う表現のを与えることで、予想を書く時のハードルが下がると感じました。また、交流の際に ICT の活用により、交流の幅が広がることも有効だと感じました。
- 子どもたちの実態を踏まえて、日々努力していく必要があると感じました。
- 小林先生のお話から、学級経営の基礎は、児童同士の自他尊重の気持ちであると考えることができました。人権教育の視点からも学級経営を捉えることが大切だと感じました。
- 研究実践をしてよかったという実感をもっている方々の話を聞くことができ、実践はできなくても、年齢や経験年数を問わず自分自身を高めるための研鑽が必要であることを痛感しました。

③総会の中での話（教育会会長様・小中校長会長様・審査員長講評・教育センター所長様の話）を聞いて学んだことや自分でも生かしていきたいと思ったこと

- 経験年数が何年だろうと、常に研修を続け自己研鑽に努めることが生徒に還元され、自身の働きがいにもつながるため、今後も研究と修養を続けたいと思いました。
- 石井校長会長の馬の足のお話は、先日の校長会でもお聞きして、早速校長便りで全職員にも周知したところです。研修を大切にすることは教職員の義務です。学び続ける職員集団を目指します。
- 私は、教員が学ぶことなしに子どもは学べないと思っています。その気持ちを新たにしました。
- 教育の在り方が大きく変化する中で、これからの社会に合わせた教育とは何かを教師自身が学び授業に生かして行くようにしたいです。
- 子どもたちの今だけを見るのではなく将来にも目を向け、教科や学級での指導にあたっていくことを、さらに大切にしていきたいと思いました。
- 実践して終わりではなく、実践によってどのような効果があったのか、生徒にどのような変容をもたらしたのかを文でまとめることで、思考の整理や今後の指導の改善につながることに気付きました。簡易的でもいいので、やっていきたいと思いました。
- 教師の生命線は研修　日々変化する社会に対応していくためにも、いつまでも学び続ける姿勢を持ちたい。
- 同じ学校に勤めていても、他の先生方がどんな考えで指導に当たっているか、なかなか交流出来ないので、このような機会に他の先生の考えに触れることは貴重だと感じました。
- 心に残った話は、キャリア教育についてです。柔軟性、多様性を求められる現代、めざす子どもの姿を描きながら、社会進出までの筋道を立てることは非常に難しいと思います。どんな力をつけさせるために、どのような経験をさせるのか。今後、キャリア教育は、さらに重要になってくるのではと思います。
- 審査委員長様講評の中の児童の声や姿、評価などの事実をもとに授業改善をしていくことを大切にしていかなければいけないと改めて感じました。
- 「自分の良さに気づき、集団の中で力を発揮しようとする力」を生徒に付けるために、生徒指導、教科指導、学級経営、普段の会話で育成していけると感じました。重要なのは、教師がその意識を

持って生徒に接することができているかだと感じました。

- 研修こそが教員の生命線であるという言葉が、改めて緒を締める思いがして残っています。校内研修を機に、色々と思考する機会はあるものの、異なる視点や話題、分野からの新しい視点をいただき、自己研鑽に努めたいと感じています。
- 教育会会長様のお話が、生徒の生きる力というのは何か、どのように育成するものなのかを改めて強く考えるきっかけとなりました。今一度キャリア教育の見直しを行い、生きる力を身につけさせたいと思います。
- 変化の多い時代に変わらないもの、変わっていくものをより分けながら、児童の実態を把握し、丁寧な指導を行なっていくようにしたい。
- 優秀賞論文の紹介から、ICT を活用した取組が今の時代に合っていて、自分ももっと活用したいと思いました。挙手ではなく、タブレットで児童の考えを知ることができるので、ノート代わりで活用するのもありだと思いました。
- 「教員の生命線は、研修である。」という言葉がとても心に残りました。様々な教科、領域の授業を参観して学んだり、自分に必要な研修を受講したりして、教育に関する見聞を広げていきたいです。また、教育の本質的課題を意識しながら学習指導や生活指導を行うことを大切にし、児童の「生きる力」の育成のために今後も尽力していこうと思いました。
- 今日の世の中に求められている内容や、児童の実態を感じとり、理論と実践を結び付けて試行錯誤を続けることが大切だと感じました。そのためには、教員の生命線である研修を私も大切にしていきたいと思いました。
- 日々変化していく社会を生き抜く力を、生徒に身につけさせていくためには、私たち教師も日々の研鑽を大切にし、互いに学び合う集団でなければならないことを再確認できました。特に、生徒の実態を適切に捉えること、捉えた実態に応じた具体的な手立てを講じること、成果が出るまで熱意をもって取り組むことは、残り少ない今年度中にも実践できることなので、明日からの授業にも生かしていきたいです。
- なぜ自分は教師でいるのか、どんな子供を育てていきたいのか、教育界にどんな点で貢献をしていきたいのかを常に自身に問いかけなくてはいけないという思いを改めて強くしました。
- 私も教員生活が長くて、その時その時の教育を自分なりにやってきたつもりです。今後も、子どもたちのためには何が大切なのか、周りの先生方とすり合わせしながら進めていきたいと思いました。
- 教育会会長様のお話の中で、自分のよさに気づき、よさを発揮していくことを願ってキャリア教育がスタートしたくだりは勉強になりました。これからも、子供を育てていく職に就いた以上、どういう力をつけさせたいか考えながら、職務に当たりたいです。

④ 郡内での実践論文の活用の実態

郡内での実践論文活用について	
今回総会に向けて令和７年度の実践論文優秀賞作に目を通した。	３６％
学校に送付された過去の郡実践論文を読んだことがある。	４３．５％
郡教育研修センターＨＰに掲載された令和３年度～令和６年度の実践論文ライブラリーを閲覧したことがある。・	２８．８％
実践論文集やライブラリーの実践を日常の自分の実践に生かしたり、実践論文執筆の参考にしたことがある。	２６．７％
実践論文集を見たり、ＨＰの実践論文ライブラリーを閲覧したことがない。	２２．６％

- ✧ 優秀論文に目を通して参加していただいた先生方が約３分の１でした。郡センターHP にアップしてありますので、まだの先生方はぜひご覧ください。
- ✧ 実践論文集及び HP の実践論文の閲覧が３～４割程度なので、日々の実践の参考になるように郡教育研修センターでも更に働きかけていきます。
- ✧ 今回の実践論文の中には夏季研修で取り上げた生成 AI の活用を行ったものや、将来を見据えて変化していく社会に適応する児童生徒を育成しようとする取組が過去に比べても多くみられました。実践論文を日常の実践に生かしてみえる先生方が現在３割程度なので、更に多くの先生方に実践論文に取り組まれた先生方のよさが広がっていくことを願っています。